

遺構から当時の姿を考える



高松市立太田小学校
6年 豊嶋 理来

目 次

動機	1
石垣山城	2
丸亀城	9
洲本城	14
まとめ	21
参考文献	22

動 機

僕は日本の城が好きです。実際に遺構を見るとここにほんとうに建物が建っていたり、石垣が築かれていたりしたんだなと思うとワクワクします。自分が撮った写真と本やパンフレットに載っている絵図とを見比べたり、資料から時代背景や城の構造などを考えるのが楽しいです。城の中には現存する建物があったり、調査が進んでいたりする城もありますが、今は不明な点が多く、これから調査が行われて当時の様子が明らかになる城もあります。

そこで今回は自分が見てきた現在の遺構をもとに当時の姿を再現してみようと思います。今までいくつかの城をめぐるしましたが今回は石垣山城、丸亀城、洲本城を取り上げてみたいと思います。

石垣山城

城の歴史

1590 年、豊臣秀吉が当時関東一帯を支配していた北条氏と関係が悪くなったことで関東に攻め込み、北条氏の本拠地だった小田原城を攻めたが、城下町ごと城壁で囲んでいて落とすことができないため城を包囲した。陸地以外にも海も軍船で包囲したが、なかなか兵糧[兵の食糧]が減らなかった。そこで小田原城が見下ろせる笠懸山に約 4 か月で城を築いた。それを見た北条勢は驚き、降伏した。



布陣図赤が豊臣軍、緑が北条軍。現地説明版より

現在残っている遺構



西曲輪・南曲輪の石垣。崩落している部分が目立つが状態の良い石垣もある。



南曲輪へと続く道。崩落した石垣の石があちこちにあるが、階段や石垣が一部残っている。



南曲輪の様子

(備考)石垣山城の石垣が崩落しているのは関東大震災の影響によるもの。



櫓門の土台



櫓門(江戸城大手一ノ門参照)



本丸の石垣。隅の石垣が滑り落ちゲニヤリと曲がっている。



二の丸の様子と石垣



二の丸櫓台。崩れてしまっている。



櫓台 櫓を建てるための土台。



井戸曲輪。城内で一番石垣の残りの良い曲輪。底は巨大な井戸。



本丸の入り口。石垣は崩落しているが、階段や石垣の痕跡がある。



本丸の様子



天守台。これも崩落している。

当時の様子の考察

調査からわかること

測量図は調査により作成されたもので、現在の城の状態をしめしている。鳥瞰図は崩落した石垣を復元している。これらから多くの曲輪は石垣でできていたことが判明している。(出丸と三の丸は斜面を急にした切岸。)また、石垣の石は石垣山城周辺で採れる石を使っていることから、材料は現地調達だったとされている。

当時の書状から

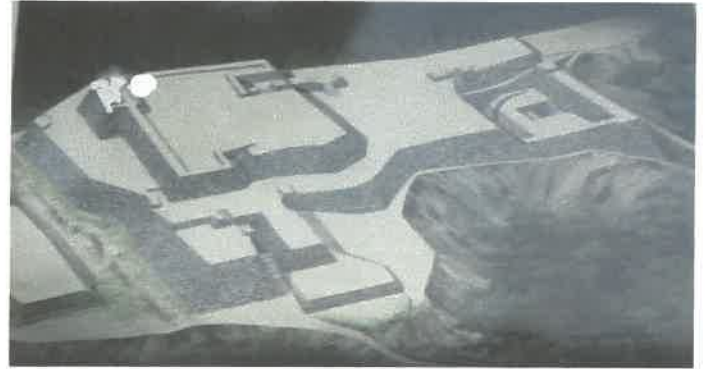
このころの書状に書かれた石垣山城関連の記述を集めた。

4月28日「来月中には石垣山城が完成する」

5月14日、「早くも石垣や台所が完成した」

6月26日「豊臣秀吉が陣を石垣山城に移し、その夜率いる軍勢に鉄砲を一斉に撃たせた。」

これらの書状から4月から6月の築城工事で秀吉が陣を構えることができる状態にだったことがわかる。



石垣山城の鳥瞰図(現地説明版より)



石垣山城の測量図(現地説明版より)

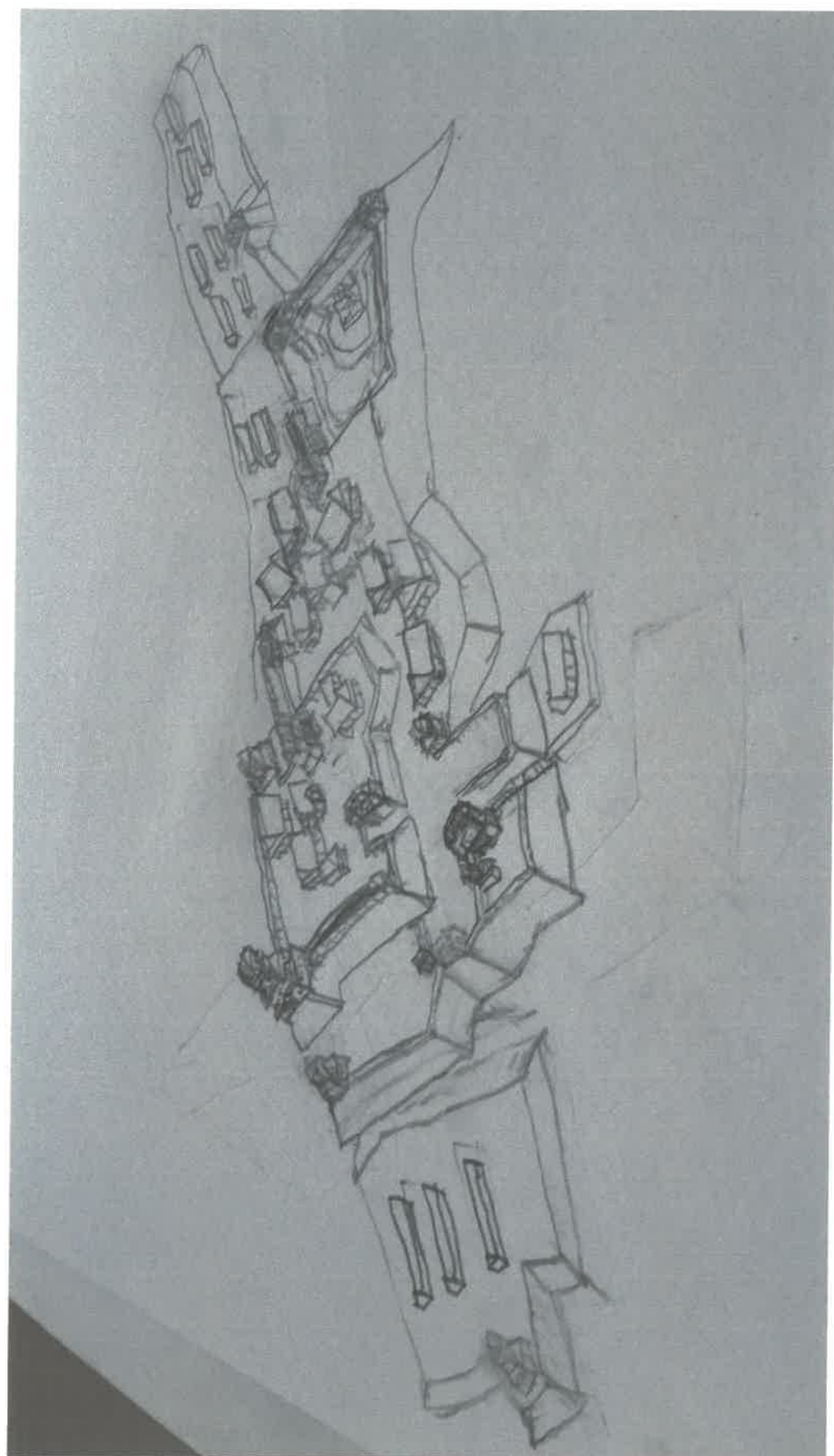


天正19年は1591年のこと。小田原攻めで北条氏が滅亡したのが1590年だから築城が北条氏滅亡後も行われていたことがわかる。いつ使われなくなったかは不明だが、少なくとも1590年代初頭には使われていたと思われる。



出土した瓦(現地説明版より)

復元図



丸亀城

城の歴史

丸亀城は1597年、生駒一正によって築かれた。文献では、それ以前に城があったと記述があるが、確証はないそうだ。生駒一正が高松城に移動すると家臣が管理していたが、江戸幕府が発布した一国一城令*によって破壊された。1640年に生駒氏が出羽矢島1万石に減封*されると、讃岐17万石が高松藩12万石、丸亀藩5万石に分割され、入封した山崎氏、京極氏によって丸亀城は再建された。以降、丸亀藩の政庁（政務を取り扱う役所のこと。）として明治維新まで存続した。

*一国一城令[いっこくいちじょうれい]1615年に江戸幕府が発布した法律。居城[大名が本拠とする城]以外の城を破壊して、使えないようにする法律で、すべての大名が対象だったが、とても領地が多い大名は例外になることもあった。

*減封 [げんぽう]大名など武士の領地を減らす処分のこと。生駒氏の場合、讃岐[現在の香川県全体]17万石から出羽矢島[現在の秋田県由利本荘市付近]1万石に領地を減らされた。

ちなみに一石＝150Kg。

現在残っている遺構

現在残っている遺構の多くは築城当時のものではなく、山崎氏・京極氏の時代のもので、今回は生駒期の様子を再現するので、遺構の紹介は生駒期のものとします。



生駒期の石垣。加工されていない自然の石を使う野面積みという古いタイプの石垣。



隅の石垣も古い積み方になっている。

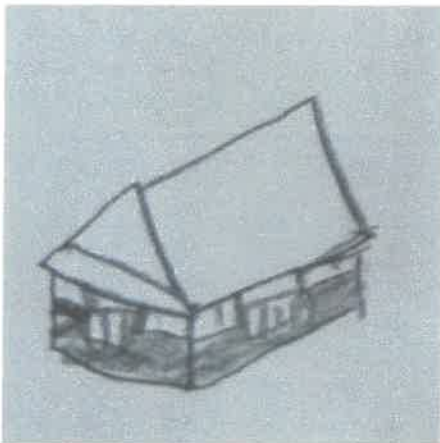


山崎氏の時代に築かれた石垣。加工された石を使っている。

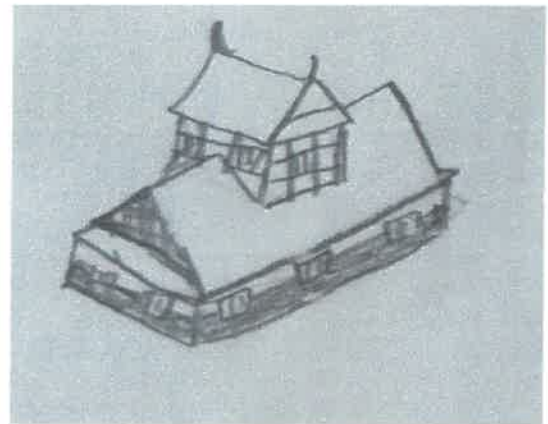
当時の様子の考察

生駒期の様子については資料が少なく、詳細がわからない。遺構は紹介した以外にも、山崎氏や京極氏の時代の石垣に埋もれた状態で見つかっている。しかし建物についての資料が現時点では見つかっておらず、建物については不明である。そのため同時代の他の城の調査結果や資料から推定する。

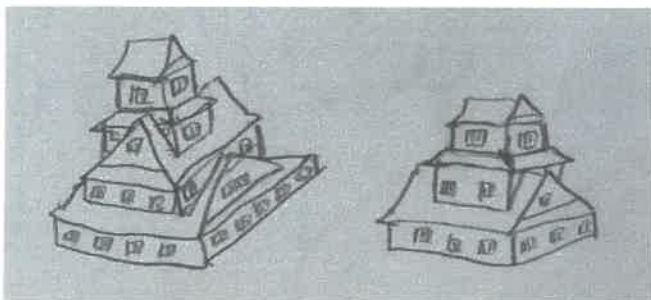
当時の櫓は望楼型というタイプだった。櫓の種類には主に多門櫓、二重櫓、平櫓、三重櫓がある。生駒氏の本拠高松城が瓦屋根だったことなどから、多くの建物が瓦屋根だったと思われる。



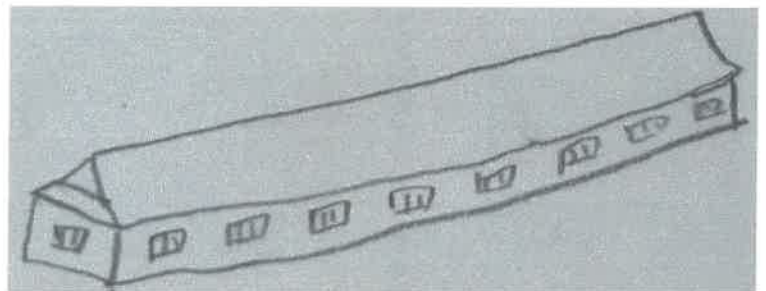
平櫓。1 階建ての櫓。



二重櫓。当時の典型的な櫓だった。



三重櫓。左のようなとても大きいタイプもあった。



多門櫓。細長く、櫓と櫓をつなぐ役割もあった。

【構造の比較】

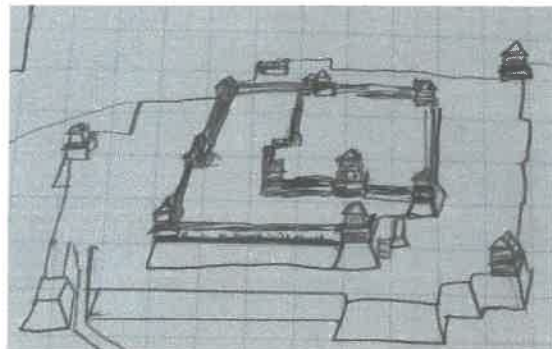
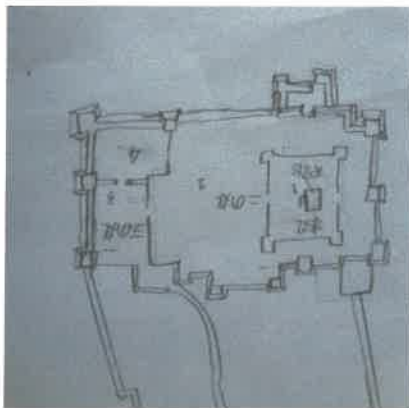
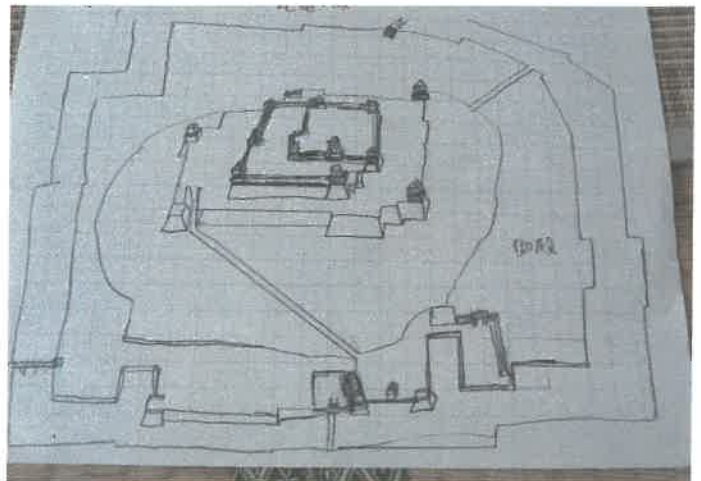
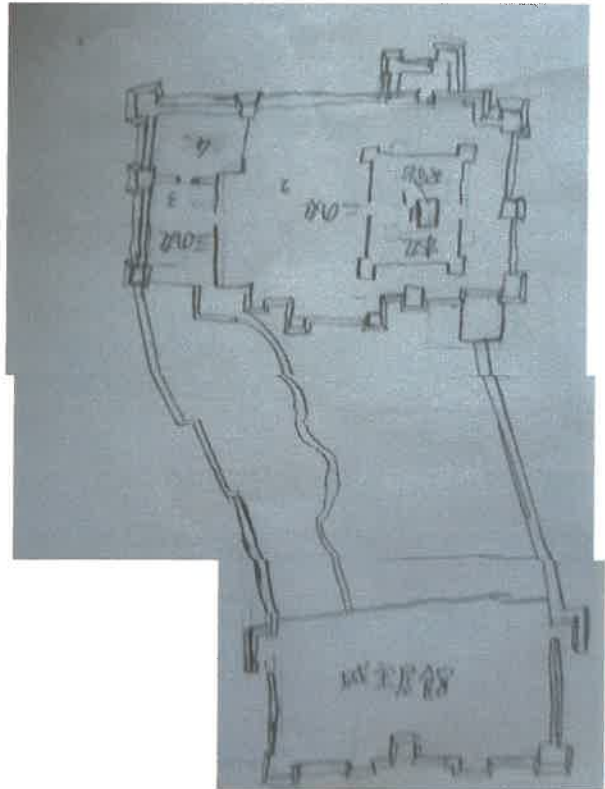
上は生駒期丸亀城の縄張図＊。

下は京極氏の時代の丸亀城。

どちらも絵図を参考にした。

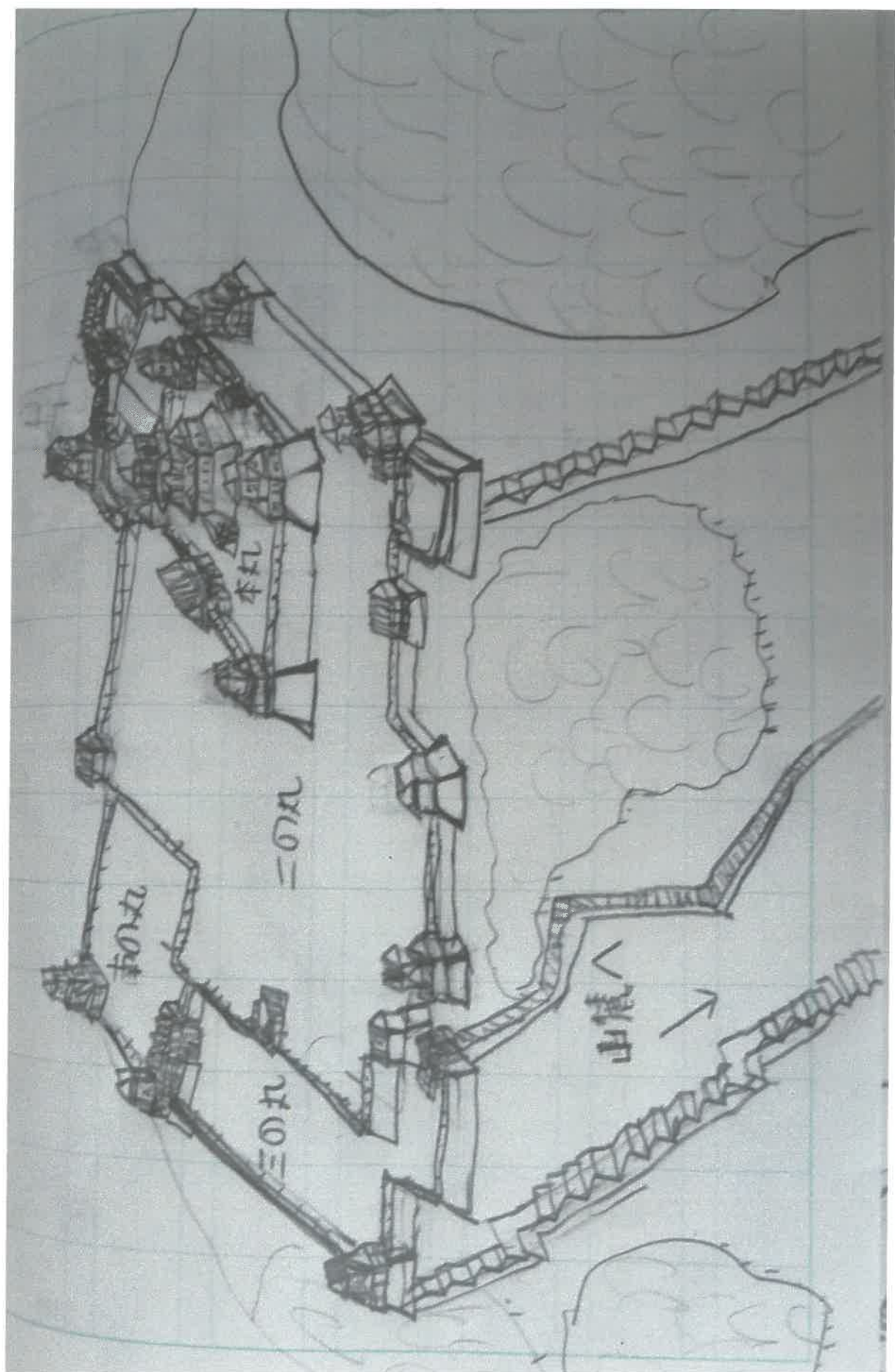
＊縄張図 城の構造を示した図面のこと。

生駒期は二の丸が本丸を囲んでいるのに対し京極期は本丸にし字形の二の丸がある。他にも登り石垣の有無などの違いがある。このことから生駒期と京極期では大きな違いがあることがわかる。



生駒期[左]と京極期[右]の山上部

復元図



洲本城

城の歴史

1526年、安宅氏が築いたとされる。1581年、羽柴秀吉(後の豊臣秀吉)が淡路国(現在の淡路島と沼島)を攻めると安宅氏は城を開け渡した。その後四国を攻めるための拠点として秀吉の家臣仙石秀久が入った。この時に石垣が築かれたともいわれるが詳細は不明である。本格的に改修されるのは1585年に城主になった脇坂安治の時代で、この時に現在みられる城が築かれた。脇坂氏は江戸幕府が開かれた後も城主だったが、1609年に伊予大洲[現在の愛媛県大洲市]に転封*となり、伊勢(現在の三重県の一部)の大名藤堂高虎の家臣が城を預かった。1610年姫路城主池田輝政の三男池田忠雄が城主となった。忠雄は洲本城を使用せず、新しく由良城という城を築いた。1617年、岡山城主の兄の死により、岡山城に移った。阿波(現在の徳島県)の大名蜂須賀氏の領地となり、洲本城が再び使われるようになった。以降淡路国の政庁として明治維新まで存続した。

*転封[てんぽう]領地を別の場所に移すこと。

現在残っている遺構



厩曲輪の石垣。高い石垣を築く技術が普及していない頃のものとみられる。



洲本城の石垣は加工されていない自然の石を使う野面積み。



大手口。門があったとみられる



南の丸の石垣。赤線で囲んだ部分が拡張されている。



門の跡。裏に階段があり、小さい櫓門があったようだ。





山里丸の石垣。石垣が低く、防御性能はあまりなかったとみられる。



南の丸。奥に櫓台がある。



本丸の石垣



本丸搦手口。上から見ると折れ曲がっている。小規模な枡形になっている。門の礎石も残っている。





本丸天守台。模擬天守が建っている



東二の門。石垣は崩れているが道が折れ曲がっている。



東の丸にある日月の池。貯水池として使われた。



東登り石垣。全国でも珍しい遺構。



武者溜と呼ばれる曲輪とその石垣

当時の様子の考察

洲本城は資料が少なく、特に建物については不明である。そのため同時代の他の城の調査結果や資料から推定する。櫓は丸亀城で紹介したような望楼型の櫓で櫓台の多くは狭く平櫓か二重櫓だったとみられる。

瓦が出土していることから、ほとんどの建物は瓦ぶきだったことがわかっている。

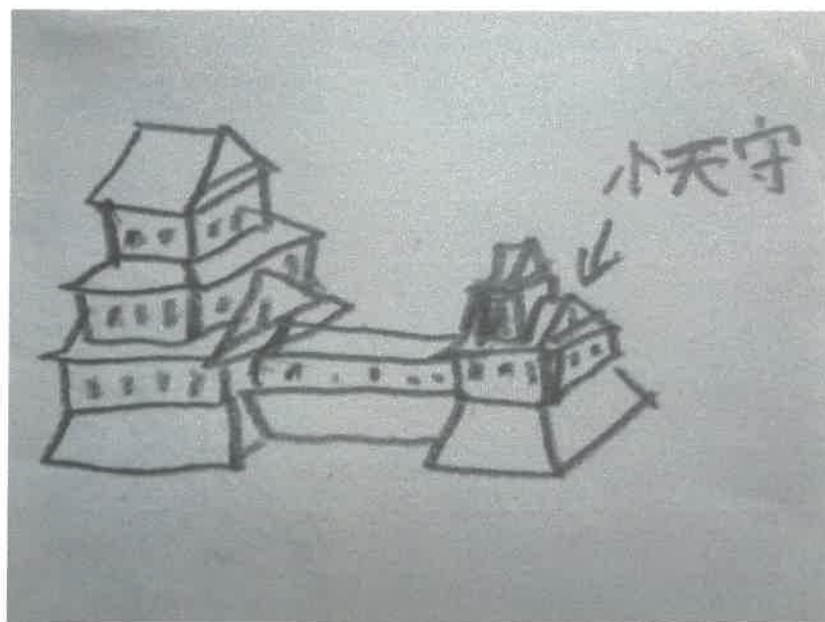
【天守についての考察】

洲本城の天守については現時点で資料が見つかっておらず、いつ建てられたかどんな姿であったかなどの詳細は不明である。現在の天守は模擬天守なので同時代の天守から推定する。現在残っている天守台や小天守台の遺構から当時は望楼型連結式というタイプの天守で、小天守と呼ばれる櫓と多門櫓でつながっていたと考えられる。



望楼型天守の例

岡山城(上) 高知城(下)



【門の考察】

高麗門や櫓門が多く造られていたと考えられる。これらの門は曲輪の入り口や要所に配置され城内に入る敵を防いだり人の出入りを監視する役割があったと考えられる。



高麗門の例
江戸城 桔梗門

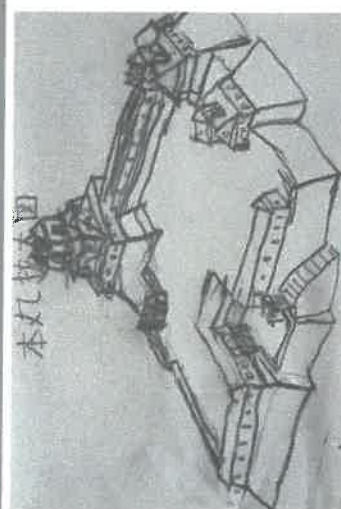
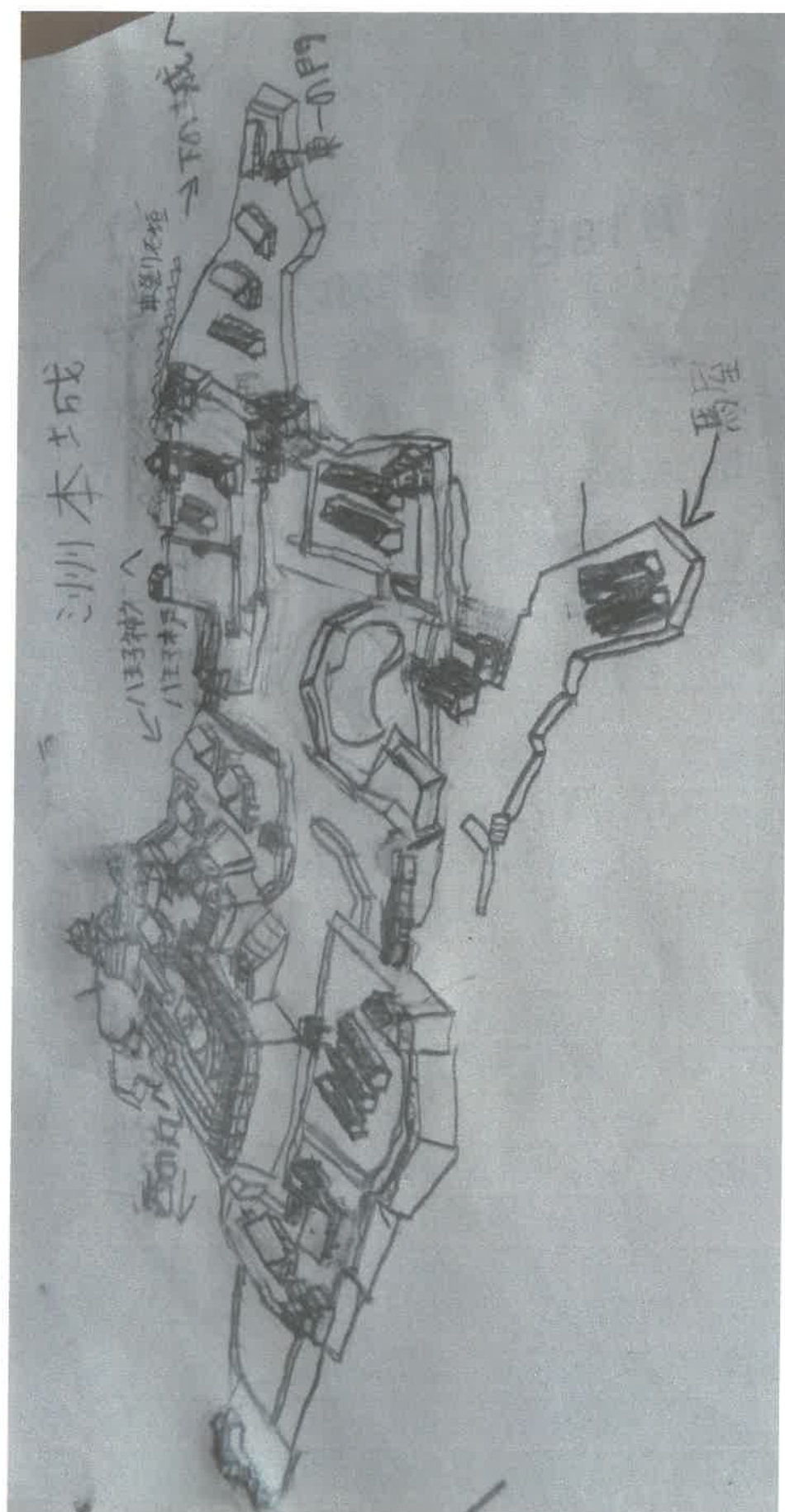


櫓門の例
松山城 筒井門

【曲輪の考察】

蔵や陣小屋(兵舎)を配置するために曲輪は山城にしては広めに造られていたと考えられる。蔵には様々な物の保管、陣小屋は兵士たちが戦に備えて仮に生活するテントのような建物である。また、本丸などの中心的な曲輪には城主の御殿が建てられていたようである。

復元図



まとめ

今回、実際に復元図をかくにあたって大変だったことは根拠となる資料を集めることでした。何度も図書館に足を運び、参考になりそうな資料や本を探しました。しかし、現在残る遺構からどんなものがあつたのか、どんな姿をしていたのかをそれらの資料や本を参考に考えるのはとても楽しかったです。また、今まで自分が読んだ本や、実際に行った城から想像することも面白かったです。今回かいた復元図の良い点は、遺構の写真や資料を多く使い、なるべく忠実に再現したところです。しかし、今から発掘調査が進めば、この復元図も全く違うものになると思います。なので、これからも城の調査について注目していきたいです。また、他の城にも行って、遺構を観察したり復元図をかいてみたいと思います。

参考文献

【高松市立中央図書館】

「図説 近世城郭の作事 天守編」三浦正幸 原書房

「図説 近世城郭の作事 櫓・城門編」三浦正幸 原書房

「廃城をゆく 1」

「廃城をゆく 6」 本間朋樹、尾形竜一、余湖浩一、ほか 4 名

イカロス出版

【香川県立図書館】

「戦国武将生駒氏と引田・高松・丸亀の 3 城」

高松市歴史民俗協会／編・出版

「城郭考古学の冒険」千田嘉博 幻冬舎

「日本の名城絵図を読む」新人物往来社

「日本城郭体系 1 5」創史社／編 新人物往来社

「戦国の城」香川元太郎 ワン・パブリッシング

「四国の近世城郭」四国地域史研究連絡協議会／編 岩田書院

「日本の城年表」西ヶ谷恭弘 朝日新聞出版

「日本の名城解剖図鑑」米澤貴紀 エクスナレッジ

「城館調査の手引き」中井均 山川出版社

「香川県中世城館詳細分布調査報告書平成 1 4 年度」

香川県教育委員会／編・出版

「日本１００名城に行こう」吉岡勇ほか２名

ワン・パブリッシング

「続日本１００名城に行こう」長崎有ほか２名 学研プラス

切り取り線

作品の裏面に貼付してください。

↓ 個人提出の場合は記載不要です

「第13回 高松市 図書館を使った 調べる学習コンクール」 作品応募カード		学校用受付番号 (学校記入欄) 3	作品番号(事務局記入欄) <table border="1"> <tr> <td>中・夢・牟 国・香</td><td>受付No 2</td></tr> </table>	中・夢・牟 国・香	受付No 2		
中・夢・牟 国・香	受付No 2						
部 門	(□に✓を入れてください。) <table border="0"> <tr> <td>☐ 小学校1・2年生の部</td><td>☐ 小学校3・4年生の部</td></tr> <tr> <td>☒ 小学校5・6年の部</td><td>☐ 中学生の部</td></tr> </table>			☐ 小学校1・2年生の部	☐ 小学校3・4年生の部	☒ 小学校5・6年の部	☐ 中学生の部
☐ 小学校1・2年生の部	☐ 小学校3・4年生の部						
☒ 小学校5・6年の部	☐ 中学生の部						
タイトル	遺構から当時の姿を考える						
ふりがな 氏 名	よしまりく 豊嶋理来						
学 校	高松市立太田 <table border="0"> <tr> <td>☒ 小学校</td><td>☐ 中学校</td><td>[6]年生</td></tr> </table>			☒ 小学校	☐ 中学校	[6]年生	
☒ 小学校	☐ 中学校	[6]年生					

※作成者が複数の場合は全員の名前を記載してください。